令和7年度 第1回羽黒地域振興懇談会 会議概要

1 日 時 令和7年8月7日(木)午後2時00分～午後4時00分

2 場 所 広瀬地区地域活動センター 講堂

3 出席者 委員 佐藤潤到委員、堀誠委員、加藤省二委員、土岐彰委員、榎本光男委員
齋藤保子委員、五十嵐満委員、小南孝子委員、齋藤一志委員、菅井奈緒委員
羽黒庁舎支所長 山口幸久、総務企画課長 板垣誠、市民福祉課長 山口えみ
産業建設課長 小林尚志、総務企画課長補佐 成澤紀美、総務企画課主査 齋藤良徳
総務企画課総務企画専門員 山本成己、総務企画課主事 鈴木悠平
本所 地域振興課長 鈴木泰行、地域振興課主査 渡部久美子
地域振興課専門員 北山幸平

4 会議次第

1. 開 会
2. あいさつ 山口支所長
3. 委員紹介(自己紹介)
4. 会長、副会長の選出
5. 報告
(1) 令和6年度羽黒地域振興懇談会での質問事項への対応について
6. 意見交換
(1) 第2次過疎計画の策定について
(2) 令和7年度羽黒地域まちづくり未来事業概要について
羽黒地域まちづくり未来事業取組み状況について
(3) その他
7. その他 次期鶴岡市地域公共交通計画策定について
8. 閉会

5 会議資料

- ・【資料1】令和6年度羽黒地域振興懇談会での質問事項への対応について
- ・【資料2】(案)第2次鶴岡市過疎地域持続的発展計画の概要
- ・【資料3】令和7年度羽黒地域まちづくり未来事業概要
- ・【資料4-1】羽黒地域まちづくり未来事業 取組み状況
- ・【資料4-2】羽黒地域まちづくり未来事業 取組み状況
- ・【資料5】次期鶴岡市地域公共交通計画策定について

5 報告

- (1) 令和6年度羽黒地域振興懇談会での質問事項の対応について
(産業建設課長、総務企画課長説明)

委員より意見・質問

【委員】

資料1のP1、5番のいずみ農産で製粉工場建設計画があるという説明について、小麦の製粉工場は再度見積もりをとったところ2倍になったため、工場の設置は中止した。今度高速ロール式の大型製粉工場に依頼できそうなので今年の9月頃から製粉を開始し、県内のラーメン屋に供給することを検討している。期待させたが、うちの工場は無理なのでよろしく願います。

【委員】

資料1のP2、4番の説明で泉地区地域活動センター併設の体育館とグラウンドを残してほしいという質問があるが、今年泉地区地域活動センターの整備計画の基本構想をつくる話をきいている。体育施設やグラウンドは関係しない構想になるのか。利用者もいるため一体に考えてもらったほうがよいのでは。

【総務企画課長】

本所のコミュニティ推進課と調整しており、今年度基本構想を策定する予定となっている。地域活動センターはコミュニティ推進課所管、スポーツ施設は教育委員会所管になるため、そこところは切り離してスポーツ施設についてはスポーツ課等と調整しながら今後検討していきたいと考えている。

【委員】

整備する際には一体の整備をしていかないといけない。所管が違うからと縦割り行政ではなく横のつながりの行政で連携をとりながら進めていただきたい。

【支所長】

切り離してというのは縦割りという意味合いではない。人口減少や、スポーツ体育施設、コミセンも入っているので文化活動も含めて今後の見通しを立てたうえで整備を行っていかなければならない。学校施設のグラウンド、体育館、これから開放していくものも含めて、羽黒地域だけではなく市全体の中でこれらの施設をどう考え、どう維持していくか、どう整備していくか、根本的なところから議論する必要があるので、ご理解をいただき、まずは泉地区地域活動センターの基本構想をたてたうえで、将来的なスポーツ施設をどうしていくのか議論をさせていただきたい。

【委員】

実際に利用しやすい施設をつくるためには一緒に考えながら進めたほうがよいのでは。

【支所長】

まったく切り離したかたちということではなく、将来的なことを含めて検討していく必要があるという視点。まだどう建てるか定まっていない状況で、体育施設については現在の施設が耐震的にもたないということが

結論づけられている。将来的なその他のスポーツ施設、羽黒体育館、体育センターのあり方や、学校の体育施設、体育館、グラウンドも含めて総合的な検討をしていきたい。

【委員】

昨日地域の福祉委員会の開催を老人福祉センターで予定していたが、急遽泉地区地域活動センターに切り替わった。理由を聞くと、エアコンの調子が悪いとのことで、エアコンを単純に直すだけでは無理で、根本的に施設そのものなのか、復旧自体可能なのか検討する必要があると聞いている。泉活動センター等を再開発するにあたり、所有は違うが社会福祉協議会と協議し、トータル的に検討いただければ幸い。

【市民福祉課長】

地下水と土壌の関係もあるとのことで、簡単に解決できるものではないと聞いている。老人福祉センターは増改築が途中で、補助金の関係で繰越できないなどいろいろ問題があるかと思う。すぐ近くの施設なのでそういった部分も含め総合的な大開発をしていかなければならないことは承知している。

【委員】

小学校6年生の子どもが放課後毎日手向地区地域活動センターに遊びに行っている。上の子どもの時は蝦夷立公園で遊んでいたが、今は活動センターに集まって遊んでおり、泉地区の子どももそこで遊んでいるようだ。聞いた話だと、広瀬や泉の活動センターは集まって遊んだりということをしたことがない。お金がかかったり各活動センターの事情もあると思うが、涼しい施設で大人の目がある中で子どもたちが遊べるのはありがたい。広瀬や泉の活動センターもそのようにできればよいと思う。

【委員】

第四地区地域活動センターでは、子どもたちが遊びに来ている。体育館でも遊べるようにしており、クーリングシェルターも実施しており、そこに子どもたちが来ても全然かまわない。他の活動センターでも同じだと思う。

【総務企画課長】

羽黒地域のクーリングシェルターとして、すべての活動センターがクーリングシェルターとなっているので、暑い日は活用していただきたい。

6 意見交換

- (1) 第2次過疎計画の策定について
(地域振興課 北山専門員説明)

委員より意見・質問

【委員】

羽黒地域で過疎対策事業債の対象となっている事業等があれば紹介いただきたい。

【地域振興課専門員】

第一次市過疎計画の中で、羽黒に関係するところとして、羽黒地域内の道路新設改良事業、交通輸送対策、バス関係の事業、スポーツ施設として羽黒のテニスコート、コミュニティセンターの管理運営事業、羽黒山スキー場、地域まちづくり未来事業も挙げられている。

【委員】

人口減少や高齢化など厳しい状況になっているので、そういったところを計画の中にしっかり盛り込んでいただければと思う。

【委員】

地域としては農業振興とか観光部門に力を入れているということもあり、過疎計画に入れるとよいと思う。

【地域振興課専門員】

農業、観光については、市過疎計画における実施すべき施策の(2)産業の振興に含んで記載する。

【委員】

市過疎計画における実施すべき施策の(1)地域間交流の促進は、具体的にどういふものを想定しているのか。

【地域振興課専門員】

第一次市過疎計画では、地域間交流の促進には国内外の兄弟都市・友好都市などの交流事業や、ふるさと会の組織活性化などを記載しているので、そういった事業を想定している。

【委員】

羽黒では新島との交流があり、去年の10月に盟約40周年記念式典が行われた。予算を継続してつけていただきたい。あるいは事業の進め方において、現場と相談しながら予算措置をいろいろ考えていただければと思う。過疎計画の中で友好都市や姉妹都市で予算を確保するのであれば新島交流も確保していただきたい。

【地域振興課専門員】

事業担当課と確認する。ソフト事業についても市過疎計画に記載すれば過疎対策債の対象になるので、記載漏れがないように策定していきたいと考えている。

【委員】

各地域の活動センターでこれから10年間に向けてどうしたいかというのを相談して、地域ビジョンを策定した記憶がある。私は羽黒第四地区なのだが、これからの目標として、高齢者になった場合に移動販売車が来てほしいとか、各地域で作ったはず。そちらを市のほうで見直してもらい、実現できるものはしていただきたい。

【総務企画課長、地域振興課専門員】

地域ビジョンも確認して、第二次市過疎計画の中に盛り込めないか検討する。

【会長】

鶴岡市総合計画の中の羽黒地域の事業と過疎計画の事業は大体似たようなものかと考えている。有効に使えるように様々な意見を集約してよりよいものを作っていただきたい。

【地域振興課専門員】

承知した。

(2) 令和7年度羽黒地域まちづくり未来事業概要について（支所長説明）

羽黒地域まちづくり未来事業取組み状況について（総務企画課長、産業建設課長、市民福祉課長説明）

委員より意見・質問

【委員】

観光に関して、来年度は羽黒山の午年御縁年にあたる。

来年度は大きい山になると認識しており、JR で東京の車内や駅に出羽三山のポスター掲示等をして発信する観光キャンペーンをしてくれる。JTB も来年度鶴岡、庄内を中心にしたキャンペーンを行ってくれる。午年御縁年ということもあり、いい条件が重なっている。

一方で、羽黒山の駐車や随神門周辺の駐車場は増えているわけではなく、月山も 150 台くらいの限られたスペースしかなく、連休になると常態的に渋滞している。

二次交通や駐車場が不足している問題があり、来年度人が訪れても、その後人が離れてしまう恐れもある。今回は午年の前の年の今年度からいろいろ予算をつけていただいて、来年に向けて十分な準備ができるのでありがたい。また渋滞の問題等もあり、地域の住民の生活の迷惑になるのではないかとということで、地域住民の方たちとの意見交換も大事だと認識している。

【支所長】

受け入れ側の体制として二次交通や駐車場の問題があり、課題として捉えている。羽黒庁舎としても、観光客にできるだけ長い時間滞在していただいて手向地区にお金が落ちる仕組みを作っていこうということで取組みを進めている。

【委員】

松ヶ岡の事業には庄内や山形方面等から人が来てくれるが、地元の人からも楽しんでもらいたい。近くの人たちからは人が集まっているが何をしているかわからないといった印象が見受けられた。地域が一緒にイベントに取り組むという状況をどのように作ったらいいか考えていきたい。

【会長】

今までの地域振興懇談会の意見の中でも、ホームページを見てもイベントが探しにくいという意見があった。検討課題に載っているなのでこれから検討していただければありがたい。

【委員】

山頂に行っても、お店が少なくワクワクすることがなくなった。羽黒の特産を羽黒山で売ったり、宿坊にどこでも泊まれるということをPRするとよいと思う。二次交通というが、それができないのであれば自家用車で来るお客さんを対象に情報発信することが大事だと思う。

随神門あたりにお店を大々的にやるなどのワクワク感がないとお客さんは喜ばないと思う。情報発信の仕方次第だと思うので、何とか頑張ってもらいたい。

【会長】

資料 4-2 の 11 番にも販売促進活動を効果的にとあるが、この点を踏まえ地元でもっと販売できるようなシステムはできないか。

【委員】

来年までは小麦を今の数倍の量出せるようにしたい。どこのラーメン屋もうちの小麦で食べられる状況にもっていきたいと思う。

【委員】

出羽三山とのコラボ商品を作るとか、二次交通が難しければレンタルやトゥクトゥクなど何か交通ルートを考えてとか、若い人も来ていただけるようにひまわり畑の坂道を下りながら庄内平野を見ていただいたり、そういった新しい景色を皆さんで発見できたらいいと思う。

【支所長】

市の方で予算を前倒して、来年の午年に間に合うような体制づくりをしているところ。

交通の関係について、タクシー会社等で運転手不足という課題がある。二次交通や住民の足をどうしていくかということも大きな課題として挙げられる。企画部で考えているが運転手不足ということもあり上手くいっていない状況、一方で市内の循環バスは上手くいっており、地域展開できないか現在検討している。

【委員】

観光客数の統計数値を教えてください。コロナ前から最近の状況、最近のお客さんの動向等をお話しいただきたい。

【産業建設課長】

羽黒山の観光客数は平成 26 年度は 90 万人だったが年々減少し、コロナ禍の令和 2 年度では 37 万人と大幅に落ち込んだ。令和 6 年度では 57 万人まで回復しているが、コロナ禍前ほどには回復していない。半面、外国人客は年々増えており、令和 6 年度では、2,200 人となった。今後、インバウンド増加に向けた取組みにも力を入れていきたいと考えている。

【委員】

出羽三山講等のコミュニティが失われており、団体の減少傾向があったが、それにとどめをさしたのがコロナ。手向の宿坊の中心だった講のお客さんは今後あまり戻らないだろうということで低調になっている。全

体の観光消費が落ちているというのは、講の方たちが少なくなっているのが原因だと思う。

インバウンドは好調で 2024 年の 2,200 人を今年は大きく超えてくると思う。しかし日本人観光客の落ち込みをインバウンドで補えるかというと桁が違うため、絶対数を取り戻すのは大変だと思う。

鶴岡市や山形県は、出羽三山にお客さんが来て、周辺地域にも経済効果が回っていくことを求めているが、オーバーツーリズムにならない受入れ客数の上限はおそらく 100 万人程度と思う。将来的な羽黒地域の観光施策の方針について検討もないままオーバーツーリズムになるようなことを進めていくべきなのか。数やお金だけではない観光のあり方を模索していかなければならないと思う。

【委員】

さきほど話題に出たタクシーの運転手不足について、全国でやっているライドシェアもあり、タクシー会社からの協力が必要だと思うが鶴岡市ではどういう方向で進もうと考えているのか。

【地域振興課長】

バスの運転手やタクシーの運転手はものすごく不足している状況。

ライドシェアは 2 種類あり、公共的なライドシェアと日本版ライドシェアがある。日本版ライドシェアはタクシー業者が自分たちでライドシェアを行うもので、公共ライドシェアは自治体や NPO 法人等の団体が行うもの。市としてもタクシー業者を圧迫してはだめだろうということもあるし、生活の足を確保するといった点でも考えなければいけないため、どうしようかと思っていたところ。本決まりではないが、タクシー業者の方でライドシェアを検討しようかなという動きは出ており、市の方でも相談を受けている。

7 その他 次期鶴岡市地域公共交通計画策定について

(地域振興課主査説明)

委員より意見・質問

【委員】

鶴岡市内の循環バスも結構利用者が多いという話を聞いて、それだけニーズがあるのだと感じた。

一方で、観光の立場でいうと、観光客のニーズはなかなか公共交通施策に取り入れられない。例えば羽黒、鶴岡間のバスについても、土日祝日がないバスが結構ある。観光客の方のバスが少なく、タクシーを頼もうと思っても台数が足りないということで、すごく不便を感じている。生活者とともに、観光客のニーズに合わせたかたちで公共交通施策を考えていただきたい。

【地域振興課長】

地域公共交通計画ということで、第一義的には生活者という目線で考えられてきたと思う。今度作る次期計画については、鶴岡市内の輸送資源といったものを全て有効活用できるように、担当部署だけでなく、協議会にも多様な方々がいるので観光目線についても意見を反映させながら作成していきたいと考えている。

以上。